

# めぐみイエス・キリスト教会

2019年4月21日(日) イースター礼拝  
週報「通算第452号」



2019年標題聖句

第Ⅱ ペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年4月21日(イースター礼拝)

第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時

司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【交読文】 No.32 詩篇第103篇 p. 905

【賛美Ⅱ】 新聖歌235「罪重荷を除くは」 p. 356

【使徒信条】 【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.3「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書19章38節～20章10節(新約p. 203)

【祈 禱】

【説 教】 《十字架・埋葬そして復活》鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 ヨハネの福音書19章38節～42節・20章1節～10節

19:38 そのあとで、イエスの弟子ではあったがユダヤ人を恐れてそのことを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取りかたづけたいとピラトに願った。それで、ピラトは許可を与えた。そこで彼は来て、イエスのからだを取り降ろした。

19:39 前に、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。

19:40 そこで、彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、それを香料と一緒に亜麻布で巻いた。

19:41 イエスが十字架につけられた場所に園があつて、そこには、まだだれも葬られたことのない新しい墓があつた。

19:42 その日がユダヤ人の備え日であったため、墓が近かったので、彼らはイエスをそこに納めた。

20:1 さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓に来た。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。

20:2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子とのところに来て、言った。「だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにはわかりません。」

20:3 そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。

20:4 ふたりは一緒に走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。

20:5 そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中にはいらなかった。

20:6 シモン・ペテロも彼に続いて来て墓にはいり、亜麻布が置いてあって、

20:7 イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布と一緒にではなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。

20:8 そのとき、先に墓についたもうひとりの弟子もはいて来た。そして、見て、信じた。

20:9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。

20:10 それで、弟子たちはまた自分のところに帰って行った。

●ポイント1. 主イエス様の三度にもおよぶ「受難予告」とは？

※マタイの福音書20章17節～19節「三度目の予告から」 (新約p.36下段)

20:17 さて、イエスは、エルサレムに上ろうとしておられたが、十二弟子だけを呼んで、道々彼らに話された。

20:18 「さあ、これから、私たちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。

20:19 そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」

●ポイント2. 福音とは？真理とは？

※第 I コリント15章1節～8節 「使徒パウロの言葉から」(新約p.310下段)

## ◎先週のメッセージの概要【しゅろの日曜日】

《今日は、イエス様がエルサレム入場された「しゅろの日曜日」にあたります。イエス様が生まれる500年以上前に、祭司ゼカリヤによって預言されました。『シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜わり、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。』

ルカは、その場に居合わせませんでしたでしたが、大切な記事を掲載しました。『エルサレムに近くなった頃、都を見られたイエスは、泣いて言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せる日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。』と。

またヨハネは、『最初、弟子たちにはこれらのことがわからなかった。しかし、イエス様が栄光を受けられてから、これらのことがイエス様について書かれたことであって、人々がそのとおりにイエス様に対して行なったことを、彼らは思い出した。』と、後に書き記しています。

イエス様は、十字架にかけられる受難週の初めの日、日曜日に預言通りに入場されました。エルサレムの民衆は大声援を送って迎えいれました。しかし、それから数日後に、彼らは「十字架につけろ」と叫ぶことになるのです。

それは、ゼカリヤ書に書かれた預言が成就したことを、パリサイ人や律法学者たち、祭司長や祭司たち、そして民衆には、分からなかったからです。このように選民であっても、敵である悪魔によって、盲目とされているのです。

そうだとしたら、私たち異邦人である日本人は、なおさら、全く暗闇の中に閉ざされていると言った具合でしょう。それでは、先に救われた私たちは、いかにして証しすべきなのでしょう。使徒パウロは、このように命じています。「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。」と。私たちは、いつも喜びを通して、感謝を通して、世の光として輝くべきなのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は4月28日(日)となります。また次回「聖書の学びと祈り会」は4月24日(水)午後6時15分からです。5月1日(水)は、連休の為お休みします。